

# 8人の議員が市政を問う 一般質問

- 1 藏原 博敏「庁舎整備計画の検討を」… P10
- 2 竹原 祐一「全国各地で始まっている学校給食の完全無償化を」… P11
- 3 河崎 徳雄「農業・観光の振興策は」… P11
- 4 谷崎 利浩「飲食店の感染予防に手助けを」… P12
- 5 甲斐純一郎「第一次産業（農業）の活性化をめざすには」… P12
- 6 園田 浩文「直轄工事終了後の道路補修工事の明確な責任所在を」… P13
- 7 森元 秀一「夜盲症に困っている人に新しい視野を」… P13
- 8 五嶋 義行「阿蘇の草原は地球温暖化対策の優等生、阿蘇市のSDGsは」… P14

## 庁舎整備計画の検討を



藏原 博敏

**藏原** 北側別館の現状について、同館は町村合併時の仮設として建造され、近年、雨漏りや議場の音響に不具合が頻繁に発生、老朽化が進んでいる。プレハブの耐用年数は、

**廣瀬財政課長** 北側別館は軽量鉄骨造りであり、用途等から耐用年数は22年となっています。

**藏原** 次に経済部が入っている西側別館について質問する。この館は旧一の宮町役場が車庫として使っていたもので築後39年経過している。屋根は一面サビに覆われ、西側に設置された空調機も真っ赤に変色している。業者の見解では塗装での修復は容易ではないとの事だが。

**財政課長** 老朽化と火山灰の影響等で全体に赤サビがでており、南外壁にはヒビが入っております。屋根カバー工法などによる修復を検討しているところです。

**藏原** 三点目、市役所を全体的に見て、住民対応スペース、事務スペースの適正面積は現状で十分と思うか。

**村山総務課長** 国の起債対象基準によると一人35・3㎡（会議室などの共用スペースを含む）となっております。

本市の21・4㎡はかなり低く、対応スペース、執務環境ともに十分とは言えないと思います。来客対応にしても立ったままになる事もあります。

**藏原** 西側別館にいたっては一人当り7・5㎡しかない。相次ぐ災害からの市の復旧・復興、そして市民の皆様の安全・繁栄が優先である事は十分理解しているが、それぞれの施設に大きな課題がある以上使用不能になってからでは遅く、急々に実現するものでもない。財源を積み立て第二庁舎建設計画を立てる時期と考える。

**財政課長** 財源的には合併特例債、財政調整基金等が考えられますが、度重なる災害やコロナ禍の関係で予算編成に苦慮しており、可能性を探ってまいります。



北側別館の入り口（東側）

# 全国各地で始まっている学校給食の完全無償化を



竹原 祐一

**竹原** 熊本県の子供の貧困化率は17%、阿蘇市の貧困化率は16%だが、現在、児童生徒の中で準・要保護つまり就学援助金受給者の総数は、

**藤井教育課長** 本年度の就学援助金受給者の総数は、全体で1999件です。

**竹原** 全国で就学援助金・生活保護を受けている児童生徒は、全国平均で15・6%。この比率を阿蘇市に当てはめれば、約300人になるが、課長の答弁では199名。それでは、あと100名は行政として補足をされていない状況、就学援助金制度を受ける事を本人の意思で受けたくないという方もたくさんいると聞く。制度から取り残された約100名の声を出せない子供達の支援の一環として学校給食の完全無償化、部分的無償化の実施はできないか。

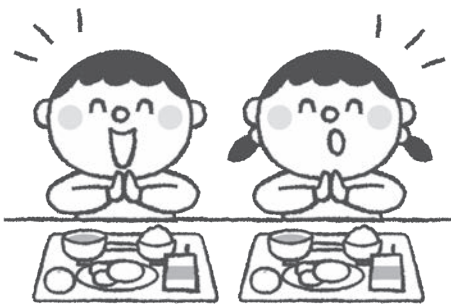
**教育課長** 無償化となると、全体で8,500万円の支出が見込まれます。今後慎重な論議を経る必要があります。現時点では非常に難しいと考えています。

## PCR検査の無償化について

**竹原** 現在、厚労省は事務連絡の中で、高齢者施設における検査は緊急包括支援交付金により補助対象の通達を出しているが、阿蘇市での取り組みは。

**宮崎市民部長** 阿蘇市では65歳以上の方が9,800人程おられますが、検査体制など様々な事項について、現在阿蘇郡市の医師会で協議が行われています。

他に「学校給食の食材の地産地消・有機食材の利用」、「プレミアム商品券の低所得者への対応」、「第8期介護保険料改定中止を」の質問がありました。



# 農業・観光の振興策は



河崎 徳雄

**河崎** 農家の高齢化で農業の後継者・担い手不足、耕作放棄地が心配される中、本市で農事組合法人が設立されたが、法人化の目的は。

**佐伯農政課長** 現在、市管内には59の集落営農組織があり、その中から既に6組織が法人設立に至り、今年度に4組織で法人が設立されています。これまで県の農地集積加速事業交付金を活用し、重点的な担い手の確保、農地集積等でコスト低減、新規作物導入による所得の確保等、地域の農業農村を維持発展させるための手段として、法人化の取組みを目的に推進しています。

**河崎** 阿蘇土地改良区管内の用水パイプ128kmと用水路施設240kmの老朽化、農地区画拡大等によるコスト軽減策、中山間地事業の見直し、区画拡大事業の導入、新規作物の模索などの課題がある中、残り49集落営農組合法人化の推進は。

**農政課長** 既存の支援策の見直しを含め、新規事業等の導入に向け、両土地改良区やJA等、関係機関と

協議を進めてまいります。また、残る集落営農組織の法人化については、県の交付金事業が終わっても、引き続き関係機関と連携し、法人設立を進めます。

## 観光振興策について

**河崎** 「I'm fine! ASO」とは、七ヶ市町村が連携し、誘客を一体で図る取組みと考えるが、これはどういう事業か。

**秦観光課長** 県の観光事業で、インフラが整備された阿蘇観光をPRするため、イベント等が実施されています。

**河崎** 震災ミュージアムに阿蘇市が入っていないのはどうしてか。

**加藤政策防災課長** 県からの協議はあったものの、市としては、震災遺構の保存より復旧を優先するとの方針であり、拠点整備事業等には取り組んでいません。



彩りに染まる阿蘇の旅  
**I'm fine! ASO**  
I'm fine! ASO のロゴマーク

# 飲食店の感染予防に手助けを



谷崎 利浩

**谷崎** 阿蘇市でも新型コロナウイルス感染者が出ていますが、保健所も経験からマスクの活用が感染をかなり抑えていると見ている様だ。しかし、食事の時に限っては、マスクが出来ない。そこで、飲食店の感染予防対策が重要となるが、飲食店等コロナ感染症予防対策補助金の活用状況は。

**荒木まちづくり課長** 申請が8件、問い合わせが140件です。今後は、相談があつております店舗に、改めて設備投資なり何か出来ないか検討していきたいと思ひます。

**谷崎** 対策が行き届いていない店舗をどう指導するかが問題だが。

**まちづくり課長** 食品衛生協会の事務局が振興局にありまして、年に複数回、地区ごとに役員さんが衛生状況を見て回っています。そこで、市と商工会と食品衛生協会と連携が図れるか申し入れを行つていきたいと思ひます。

**谷崎** コロナがさらに拡大すると、時短の要請、自粛の要請の必要性が出てくる。飲食業は74店舗、接客を伴う飲食業は21店舗。コロナ対策交付金の残は6,300万円ある

ので、市独自で従業員の分も含め、いざという時の資金として取つておいて頂きたいが。

**宮崎市民部長** 自粛、時短となると補償という問題が出てまいりませう。熊本市が立入調査出来るのは、保健所を持つているからでそれ以外の自治体では、県の保健所が動くという事になります。自治体は独自の調査などについては、県の判断・指示を仰ぐということになります。

他に「マイナンバーカードの安全性について」の質問がありました。



誰もが安心して楽しめるように

会食時の感染対策のモデル

# 第二次産業(農業)の活性化をめざすには



甲斐 純一郎

**甲斐** 阿蘇谷圃場整備事業再整備工事(老朽化する農業用施設の更新)にて、優良農地を構築すると共に、年間1億円にも及ぶ農事用電気料個人負担分の軽減を図ることを政策提案したい。

まずは、再整備工事の進捗状況と事業費の軽減策(農地集積)について尋ねる。

**佐伯農政課長** 一の宮町管内では平成19年度から県営事業を活用し、順調に再整備を行つています。併せて農地の集積率を上げ、地元負担金の軽減が図られるよう事業推進がなされています。

**甲斐** 阿蘇は九州・熊本の水がめと言われるが、現実には地下水ポンプや還元・河川ポンプ300機を稼働している。その経費負担(電気料)が活性化を阻害していると思ひます。

**農政課長** まさに、営農意欲の向上又は経営の安定を図るためにも電気料の削減は必要不可欠と認識しています。今後は、県をはじめ両土地改良区と効果的・効率的な事業推進を検討させて頂きます。

**甲斐** 世界農業遺産「阿蘇」の存在価値を啓発し、負担軽減を図るこ

とが出来ないか以下を考える。①川流域連携の観点から、現状(負担状況)を発信したい。②熊本県へ、阿蘇だけのブランドではなく、熊本県のブランドであることを認識して頂く。③国(農水省)へ、阿蘇は九州六次産業の原点であり、その貢献度を考慮して頂き、要望・対応策を仰ぎたいが、市としての対応は。

**佐藤市長** 市負担ではありますが、多くの災害等で厳しい現状であります。しかし、経済の振興発展は必要不可欠であり同感します。隣接する町村とも協議し、また関係団体とも大きな課題として積極的に取り組むたいと考えています。

## 城山展望所周辺整備について

**甲斐** 城山展望所周辺整備が速やかに実施された結果、ライトアップする夜景・天空の城(ジブリの世界)がカルデラ内から見え、地元の人も観光客も魅了されているが、更なる振興策は。

**秦観光課長** 次年度、若者を呼び込む観光振興策に取り組みの中でその中で考えていきたいと思ひます。



用水機場全景

# 直轄工事終了後の道路補修工事の明確な責任所在を



園田 浩文

**園田** 現在、阿蘇市内の国・県による直轄砂防堰堤工事箇所数は、中本建設課長 国の直轄砂防工事

は6箇所です。

**園田** なべづる線沿線や内牧1区・小里付近の市道を一日当たり相当数の大型車両が往來している。特に交差点付近の市道の損傷が目にする状況である。直轄工事は工期が長いためにその都度補修工事はやられているが、工期の中間程度何らかの根本的な手当てが必要ではないか。

**建設課長** 通行ルートは地元との取り決めにより決まっていますが、特に交差点付近はハンドルを切ることでにより舗装の沈下やひび割れができています。適宜舗装補修は行っていますが、一つの工事に2年から3年かかります。タイミングを見て、思い切った舗装補修をお願いしているかと思っています。

**園田** 直轄工事後後に舗装、側溝等の補修や新設は発注者側で責任をもってやって頂くが、口頭ではなく確約をとる様な書面での取り交わしが必要ではないのか。

吉良土木部長

長く続く事業です

ので、復興事務所にも出向いて継続して申し入れていきたいと思っています。

**園田** 県道河陰阿蘇線赤水交差点から踏切方面にかけて「家が揺れています」、「徐行お願いします」のお知らせ看板が設置されているが、市に苦情・相談はないのか。

**建設課長** 震災後に踏切付近の住民の方から家が揺れるとの事で、県と立会いを行い、舗装の直しと工事車両の徐行をお願いした経緯はあります。

**園田** 市が窓口になっている国県への区長要望書の取り扱いは、村山総務課長 道路関係であれば建設課が現地の確認を行い、関係機関に進達や要望書として提出します。又、市を通さず直接国・県の機関に、地域住民からの要望を書面で申し入れますと、国・県の予算確保も出来やすいと伺っています。

他に「教育キャンプ場の最新の検討策は」「医療センターの運用状況は」の質問がありました。



徐行を求める看板

# 夜盲症に困っている人に新しい視野を



森元 秀一

**森元** 阿蘇市において、指定難病である網膜色素変性症の治療している患者数は、

**松岡福祉課長** 令和2年5月末現在13名の方が当該指定難病の指定を受けています。

**森元** 暗所視支援眼鏡の価格は40万円と高額になるため、中々購入まで踏み切れないという声も聞きますが、本県でも天草市や近隣の市町村において補助を始めると聞いている。市の見解は、

**福祉課長** 市においても、移動に著しい困難を受ける方が外出する際に、同行援護事業の利用者がおられることから、現在日常生活用具給付事業の補助対象として令和3年度に向けて調整しております。

つづいて

**森元** 小学校のいじめが増えていると聞くが阿蘇市の実態は、

**藤井教育課長** 現在、認知件数として把握しているもので小学校15件、中学校7件、不登校においては、



暗所視支援眼鏡

小中学校合わせて26名おり、別途12名が不登校傾向にあります。  
**森元** 学校現場での意識改革や相談体制の整備は進められているのか。  
**教育課長** 日頃から子供のちょっとした変化も意識して注視し、必ず教職員が子供と向き合うように指導しています。担任とスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが連携しながら相談ができる体制を整え、子供たちに分かりやすいように伝えています。

他に「結婚新生活支援事業について」、「市民の終活サポート、お悔やみコーナーの設置について」の質問がありました。



五嶋 義行

**五嶋** 地球温暖化の影響で、台風の大規模化、豪雨が頻発し、毎年大きな災害が発生しているが、阿蘇市として具体的な温室効果ガスを減らす活動（阿蘇市のSDGs）は。

**藤田住環境課長** 台風や豪雨など想定を超えた気候災害が頻発している中で、人々の命や暮らしを守るため、地球温暖化対策は喫緊の世界共通の課題として、SDGsにも達成すべき目標として定められています。本市では、熊本市を中心に18市町村で構成する熊本連携中枢都市圏で広域的な取組を進めており、「温暖化対策実行計画」に基づき、CO<sub>2</sub>排出ゼロに向けて行政、市民、事業者など一体となった対策を進めています。具体的には、再生可能エネルギーの普及促進のため、本庁と内牧支所に電気自動車の急速充電器を、道の駅阿蘇など市内7施設にソーラーカーポート（太陽光発電）を設置し、バイオマスボイラーや水力発電についても導入の可能性を検討しています。

**五嶋** 農業に関しても、有機資材を土壌にたくさん入れると土壌炭素

貯留率が高まるので、有機農業を推進すると共に草原再生も積極的に進めるべきではないか。

**住環境課長** 草原再生協議会の調査研究によれば、阿蘇の草原は千年以上前から続けられた野焼きにより、炭が土壌に蓄積され生成された黒ボク土で覆われており、炭素含有率が格段に高い、世界に類を見ない膨大な炭素蓄積地帯となっているとのこと。ここでの年間炭素吸収量は阿蘇地域全世帯の8〜9割の排出量に相当し、つまりその分を草原が吸収・固定している計算になるそうです。野焼きによる草原の維持活動が温暖化防止の役割を果たしているように、農地についても炭素蓄積量を高められるような方法を研究していきたいと思えます。



阿蘇の草原

## 議会活性化特別委員会を設置しました

阿蘇市議会では、議員定数の適正化と、時代に合った議会の活性化を図るため、令和2年3月から議会活性化準備委員会において検討すべき内容を精査してきましたが、この度、以下のとおり結果がまとまりましたので、令和2年第6回定例会で**議会活性化特別委員会**を設置し、具体的な検討に入ることになりました。

市民の代表者として市政に携わる機能と責務を深く自覚し、地方自治の本旨に従いながら、使命達成に向け議論してまいります。



立石昭夫 委員 甲斐純一郎 委員 児玉正孝 委員 佐藤菊男 委員 佐藤和宏 委員  
園田浩文 委員 菅 敏徳 副委員長 谷崎利浩 委員長 市原 正 委員

### 議会活性化特別委員会での検討事項

- ①議員定数の適正化（見直し）
- ②議会活性化のための調査・研究
  - 議会基本条例の制定について
  - 各種委員会の体制強化、見直し
  - 議会活動における広報・広聴の充実